

# かけはし

黄の2組  
~秋のダイナミックワールド号~

「秋のダイナミックワールド」において、黄の2組で展開されている遊び、その遊びが始まったきっかけなど、ご紹介させていただきます。各クラスの「かけはし」は、本園 Web サイト「園からのお便り」のページにも掲載する予定です。よろしければ、ぜひ、他クラスの遊びの様子もご覧ください。

1学期から、さまざまな身近な素材（お菓子の空き箱、ペットボトル、牛乳パックやサランラップの芯など）を使って遊び、それぞれが思い思いにつくったものを遊びに取り入れてきた子どもたち。手づくり楽器をついたり、出合った昆虫をついたり、身近な素材をいかして、いろいろな工作をしてきました。「先生、アイスを食べた後の棒は、遊びに使えるかな?」「牛乳パック、持ってきたよ」などと、おうちから、さまざまな身近な素材が集まる毎日です。今は、さらに、素材のもつ特性にも着目し、それらをいかした遊びをつくりだせないかと、黄組みんなで探究中です。

## 身近な素材をリユース 的入れゲーム

素材を組み合わせて、ボールをつくっていたことから、はじめた遊び。



プラスチックのカップを組み合わせて、ボールをつくっていた子どもたち。「デコボコしていて転がらないよ」「丸いほうが転がる!」と、新聞紙でボールをつくってみることに。



できた新聞紙ボールを投げて遊びだした子どもたち。何かのあったらいいかな?と保育者が段ボールを持ってくると、「ここに穴をあけて」と言い出しました。



どこに入ったら、何点かわかるように、色をぬったらどうかという意見も出てきました。みんなで楽しく遊べるように工夫しています。

## 身近な素材をリユース 玉入れゲーム

新聞紙でつくったボールを投げて遊んでいた子どもたちから生まれた遊び。



「運動会の玉入れが楽しかったからまたやりたい」と、新聞紙でつくったボールを投げて遊んでいた子どもたち。いろいろな大きさのボールをつくってみることに。



新聞紙に、和紙をはって、色をぬり、ボールの完成です。



ラーメンカップや、段ボールで、玉を入れる的をつくりました。どんな風にボールをなげたら、上手に入るか、意見を出し合っています。

## 身近な素材をリユース くじ引きゲーム

ハロウィンの部屋飾りのクモの巣をつくっていた子どもたちが、くじ引きのようにクモの巣のひもをひっぱっていたことからはじめた遊び。



「公園のクモの巣みたいにしてみよう!」

ハロウィンの飾りをつくっている頃、ちょうど園外保育で木の実拾いへ行きました。そこで、クモの巣に遭遇したことを思い出した子どもたち。



クモの巣をつくらうと、ひもを使って遊んでいるうちに、ひもをくじ引きのように引っ張るのが楽しくなってきた子どもたち。



「あたりってわかるように、キラキラを入れよう!」

「くじを引いたら、“あたり・はずれ”が出てきたら楽しいね」「(ひもの先に)紙であたり・はずれがわかるように描いておこう」という意見も...。現在、作成中です。

## 身近な素材をリユース コロコロゲーム

自由工作でつくった作品に、木の実拾いで拾ってきたドングリや木の実を転がして遊んでいたことからはじめた遊び。



「この中にドングリ転がしたら楽しいかな」

身近な素材を使った工作に夢中な子どもたち。いろいろな素材を使ってつくっています。ピタゴラスイッチをつくり始める子も。



自分たちの作品を「合体させてみよう」と、組み合わせてみることに。



「ドングリを転がしてみよう!」

「ドングリの道を二つに分ける?」「いいね!」「お部屋のいろいろなゲームの始まりにおいて、お客様に楽しんでもらおう!」などと、相談しながらつくっています。

## 身近な素材をリサイクル ごほうびづくり

新聞紙がいろいろなものになることに気づいた子どもたちから生まれた遊び。



新聞紙って、手で細かく切れたり、ボールにもできたりすることに気づいた子どもたち。「他にもどんなふうにしたら、新聞紙の形をかえられるかな?」と問いかけたところ、「水にぬれるとかわるかも」と実験開始。



「よくしぼって、型に入れよう!」



いろいろな型に入れ固めると、「チョコレートみたい」「ゲームのご褒美にしたらいね」と子どもたち。新たな形を製作中です。